

研究テーマ「事務の共同実施と学校事務における教育支援のあり方について」

発表者 佐々木 幸 子（宮古市立田老第一中学校 事務主査）
助言者 平 野 拓（前宮古市立津軽石小学校 主任事務主査
現日本鱗翅学会会員、日本チョウ類保全協会会員、宮古市環境審議会委員）
齊 藤 義 宏（宮古市立川井小学校 校長）
司会者 佐 藤 之 彦（宮古市立第二中学校 主任事務主査）
記録者 在 家 碧（宮古市立田老第一小学校 主事）

1 発表の概要

【研究の目的】

共同事務室による学校訪問、小規模連携支援などから学校事務の平準化と学校経営の円滑化を目指し、学校事務運営から教育支援に繋げる取り組みを進める。

また、学校においては、共同事務室の取り組みを受け教育環境改善に取り組む。

【研究目標】

- 1 学校訪問による各校の状況確認から事務運営の安定化、課題解決に繋げる
- 2 小規模連携支援校における事務支援、協働による事務の平準化を目指す
- 3 教育環境整備による学校運営（教育活動）の円滑化

2 討議の内容

【討議の柱1】各共同事務室での教育支援の実践を交流する。

○ 司会者

1 1月までの状況を実践資料として出している崎山小学校ですが、その後の成果、課題はありますか。

○ 宮古市（小学校）

今のところ、表示してある場所には物は戻ってくる。元の場所に戻す癖をつけることが出来れば、時間のロスを減らすことが出来るだろう。年度を超えてしまうと教室移動があったり、クラスの増減があったりすれば、表示は更新していかなければならないだろう。毎年やらなければいけないと思っている。

○ 宮古市（小学校）

転任してきても事務職員だから用具の場所を知っているだろうと言われることが多かった。教材室を整理して、表示をしたところ、置いてある場所が分かりやすくなった。そのため、物品が戻ってくるようになったので良かったと思う。

○ 司会者

教育支援分野について、宮古第1共同事務室に実践や取り組みを紹介していただきました。各共同事務室でも教育支援がひとつのテーマになっていると思います。各共同事務室で教育支援にどのように取り組んでいるのか。実践がありましたら、紹介していただきたいです。

- 宮古市（小学校）
第2共同事務室では訪問支援を行っており、第1共同事務室と重なるところも多い。共同実施全体で訪問する際は、その学校の課題となる点をフォローしようという取り組み。中学校区の小規模連携は河南中学校区、重茂中学校区、津軽石中学校区。

【河南中学校区】

河南中学区4校。経験が浅い職員が多い。

主任から業務について聞きながら、ひとりひとりスキルアップを目指している。

【津軽石学校区】

加配が津軽石小学校に配置されている。そのため、津軽石小学校で、赤前小学校、津軽石中学校の請求書処理事務を行っている。

【重茂中学校区】

保存年限の過ぎた文書の廃棄を行っている。

- 山田町（小学校）
山田共同事務室では今まで学校訪問はやっていなかったが、今年度から取り組んでいる。教材室の整備の支援も行い、教諭たちからも使いやすいと言われている。

- 山田町（小学校）
収納については、同じ共同事務室内の船越小学校の阿部さんからのアドバイスを参考にした。会計簿の5年保存の方法の提供を受けた。学年ごとの簿冊にする方法もあると聞き、学校で実践してみた。
また、加配がいるため、山田共同事務室では室長が動きやすい状態である。そのため、室長が学校を回り支援している。

- 岩泉町（小学校）
岩泉町は現在17校。事務本採用者5名、臨時6名、副校長1名で構成されている。
そのため、手当認定だけで大変な状況であり、現在の状況では教育支援の取り組みは難しい。
また、平成29年度小川地区6校が統合するかもしれず、文書整理などの共同実施での訪問支援が必要になるかもしれない。

- 司会者
各共同事務室それぞれが積極的に教育支援に取り組んでいると思います。ここで、ご助言をいただきます。

- 助言者
川井地区小学校の統合では共同事務室の支援を受けた。川井地区では、事務職員、副校長もいない学校があった。共同実施で台帳等の整理を行ってもらったことにより、先生たちは閉校行事に専念することができた。本来はそれらも職員がやるべきことであるが、共同実施でやっていただいて、川井地区の職員はとても助かった。

【実践発表から学ぶこと】

事務の共同実施の背景、目的をしっかりとらえている。そのため、この実践発表には根拠があり、説得力がある。今回の発表は宮古市の共同実施を進めてきた中での、未配置校や転入職員への支援、相互事務確認などの成果と支援のあり方、時間の確保などの課題を示したものである。

【教育支援の必要性】

裁量の拡大などにより、様々な課題への対応力が求められている。また、少子化に伴う学校統合が増えているため、閉校に関する事務や文書整理など、事務量が多くなるだろう。

宮古市の共同実施での取り組みは、学校全体の状況を見て行動している。そこにこの研究の理念、良さがある。

【門馬地区について】

門馬小学校は統合しなかったが、学校を川井小学校まで認めるという指定校変更という制度が出来た。そのため、川井小学校は来年から受け入れが始まる。

どちらがいいということではなく、教育を取り巻く環境、親の考え方、地域の考え方を受け止めて進んでいかなければいけない。

【課題解決に向けた持続可能な実践内容であること】

身近なところから取り組むことで課題解決の価値観やサイクルを継続、実践していく。それを確認し、見直して改善をしていくことが必要。コミュニケーションを含めて先生方の声を聞き、そこから業務を推進しやすくするかを考えることで、先生方が子どもたちと向き合う時間につながる。

また、どの時期にどのくらいの支援をすると、どうなるのか。その結果、どうなったか。それを捉えることによって課題が見えてくる。

【教育支援の実態】

経験が浅い職員、臨時職員は不安感があるもの。しかし、共同事務室のノウハウを教えてもらえることで前に進むことが出来る。

仕事をしていて、前に進んでいるのか分からず、効果が見えない時には疲れてしまう。臨時、未配置校支援では、前に進んでいる安心感が時間以上の効果を生む。

事務処理の適正化により、安心した学校経営ができる。

予算の使い方をアドバイスしてくれることにも意味がある。

備品管理では、物がどこにあるか視覚化しており、スムーズな動線を生み出している。それを教室内にも取り入れている先生もおおり、様々なところに広がっている。

【討議の柱2】共同実施としての教育支援にはどのようなものがあるか。

○ 山田町（小学校）

山田共同事務室では、今年度から訪問支援を行っている。織笠小学校では文書の整備をした。昔からのものを捨てづらいということもあったが、整理をすることによって校長室も整備され、使いやすくなった。

山田共同事務室では事務処理ソフトの使用方法について、新採用等に年度当初に説明する機会を持っている。

これからは経験年数が浅い職員が多くなっていくため、共同実施での訪問支援が増々重要になるのではないか。

○ 遠野市（小学校）

共同実施の開催頻度は月1回程度である。そのため、教育支援的なことまでは出来ない。

新採用職員への支援は個人として行っている。共同実施としてはやっていない。
遠野市でも子どもの数が減っており、臨時採用者が多くなるかもしれない。
小規模校へ支援の取り組みが参考になるのではないかと思う。

○ 岩泉町（小学校）

岩泉では、津軽石小学校の城内さんを講師にマタタビ等の講習会を行っている。
兼務校発令をされている事務職員もいるため、他校に行くことも多い。そのため、事務職員が本務校にいない時間が多い。兼務発令は県費負担職員である。町費職員の支援にはなっているようだ。

○ 宮古市（小学校）

共同実施で使用しているソフト（マタタビ等）があり、便利だと感じているので、今のところ不安感はない。

○ 宮古市（中学校）

共同実施で行っている安全点検で危険な箇所を気づくことができ、助かっている。

○ 助言者

実践をそれぞれ発表してもらっているが、共同実施という『組織』のことだから言いにくいかもしれない。どのようなフォローアップがなされているか。組織の仕事をどう分担するか。多い人の仕事を周りでどうフォローしていくか。まずは、自分の学校で考えてみてもいいかもしれない。

本来は兼務発令してもいいと言われていた。制度的には共同実施の業務については兼務であり、他の学校の仕事も兼務である。

教育支援ではなく、業務と考えていかなければいけないだろう。きちんと業務をやっていく、という考え方。これは、違う視点で整理できるかもしれない。

事務処理にかかる時間、手間を省力化していかなければいけない。減らしていくことは常にしていかなければならない。また、仕事の根本を知らなければいけない。

下閉伊地区だけでは難しいが、見直ししていけば変えていける。

就学援助費が振り込みになった。仕事量が減れば、余裕を持って業務に取り組める。

学校の垣根を越えて運営していくことも必要。教育委員会などの関係機関とうまく連携していけば、学校経営もしやすくなっていく。兼務発令という意識を少し持つことが大切。考え方の整理も必要だろう。

○ 司会者

知的判断のため、より事務を効率化する。その前提として、増えている仕事を再度見直ししていくことが必要だろう。

大規模校支援はまだ手を出せない部分が多いようだ。

相対的な仕事量の部分について、山田共同事務室では、全体の仕事を効率化しているようですが、紹介をしていただけないでしょうか。

○ 山田町（小学校）

就学援助費に関しては共同実施で、様式の修正、配布、作成を行っている。その様式は町教委に提出している。また、就学援助費が振り込みになり、手渡しより負担が減った。ソフト開発に関しては教育委員会にも見てもらっている。町教委からはソフトを使って就学援助費の申請をしてくださ、と言われていた。

- 司会者
山田町にいた頃、共同実施の場に教育委員会にも来てもらい、就学援助費について意見交換した。教育委員会、学校両方の意見をすり合わせてソフトが作られた。
- 遠野市（小学校）
遠野市でも教育委員会と交流し、改善していけるところは改善していくと確認している。
- 岩泉町（小学校）
就学援助費に関しては振り込みになるという方向性は決まっているが、バラバラだった。委員会から説明を受けながら共通理解を図る場を設けた。給食費の滞納があり、どうするか、という声があがっている。
- 司会者
大規模校支援に関しては、大規模校以外の学校はやらなければならないと思っているだろう。しかし、大規模校側としては来てもらうためには準備が必要となってくる。このパターンが現状であるが、大規模校支援の取り組みを紹介していただけませんか。
- 宮古市（中学校）
共同事務室は兼務発令という考え方でいいのではないか。しかし、学校という垣根を払う時に校長先生達がどう思うか。
このままの状態では少しの業務しか任せることが出来ない。変えていく必要があるのかもしれない。
また、学校支援なのか、教員支援なのか、整理していかなければいけないだろう。
- 宮古市（中学校）
学校内部で事務支援を受けたことがある。崎山小中で小規模連携を行うことで、支出命令だけでも取扱い方が違うということに気付くことが出来た。
- 岩泉町（中学校）
楽器店で学校を回っていたため、会社を経験した者の目線で見えることもある。
共同実施でレベルアップしていきたいと思っている。
事務職員は基本的に学校にひとりであるため、職場内研修が難しい。
- 助言者
これからの学校経営に役立つ時間だった。一緒に働く者として、事務職員の姿勢を共有していきたい。そして、教育の現場にいるものとして事務職員と協働して進んでいきたい。
また、事業に対するアンテナ高くしてもらい、アドバイスをしてもらいたい。
- 助言者
自分の仕事を開示する。いつでも自分の仕事を見せられるサイクルにもっていく。そこが変わっていけるポイントではないか。
制度改革が宮古市でもあったが、今は落ち着いている。落ち着いて中身をやっていける時期だろう。発想の転換もしていけないといけない。アイディアの勝負だ。違う視点でものを見て、工夫を重ねていく。標準化は難しいことだ。
教育に対する欲求をフォローアップし、足りないところを補っていく。そうすることにより、色々な場面で子どもたちに返っていくだろう。